吟香会報

「香水」の先駆者でもあった岸田吟香

フリーライター・香りの文化史研究家　伊藤由起子

私は北海道在住の文筆家で、香りの文化史の研究をしています。岸田吟香を知ったのも、香りに関するとある調査がきっかけでした。明治九年ごろから北海道開拓使（明治政府直轄の行政機関で、北海道庁の前身）が官営事業として香水をつくっていた記録が見つかり、吟香が深く関わっていたことがわかったのです。役人が吟香から聞き取った口述筆記や、吟香直筆の手紙も見つかりました。

当時は「香水といえば舶来品」の時代でしたが、この香水事業では、西洋式の製法により、芳香植物から香料（ハマナス油、クロモジ油）を抽出しアルコールで希釈して香水がつくられました。吟香は「その道の専門家」として協力を求められ、製法の助言はもちろん品質や価格設定についても外国産香料との比較から親身に意見を授けています。

吟香は外国産香料を調合した「白薔薇水」「吟香水」などの香水を、すでに明治十年開催の内国勧業博覧会に出品していて楽善堂のチラシにも載せており、まさに「その道の専門家」。第二回の博覧会（明治十四年）には、北海道産の香料でつくった香水も出品し「香水各種」に対して報奨が授与されています。様々な分野で先駆的な事業を手がけた吟香ですが、香水においても先駆者だったのです。

他にも東京・横浜間の運行に用いた船を北海道開拓使に売却したり、函館の氷を首都圏で販売したりと、吟香と北海道とのつながりは少なくありません。そんな吟香に親しみを覚え、また彼のフロンティアスピリットに魅せられ、岡山の美咲町に生まれ故郷や記念館を訪ねたことが、語り継ぐ会とのご縁につながりました。微力ながら、岸田吟香の魅力や業績を伝え広めるお手伝いができればと思っています。

写真：「岸田吟香翁像」の前で、ご案内いただいた加原奎吾氏（元旭町教育長・元岸田吟香記念館長）と。

編集・発行
岸田吟香を語り継ぐ会
2023年1月1日

事務局
山本登志夫
090-1015-2367

浜辺のはまなす「提供：安田秀司氏」

2023年 あけまして おめでとうございます

今年は 吟香生誕 190年節目の年

●岸田吟香を語り継ぐ会は、令和2年（2020）発足以来多くの皆さまに支えられ今年で4年目を迎えます。運営は岡山県内各地から選出された世話人14人があたり、調査研究や皆様への情報提供、全国に知名度を上げる運動（夢は大河ドラマ化）を行っています。

※吟香の夢「大魚は小池に遊ばず」

●今年は、天保4年（1833）4月吟香生誕から190年の節目の年を迎えます。私たち語り継ぐ会は、会員をはじめ全国で吟香を研究している大学の教授や歴史研究家など多くの人々に支えられていますが、今回も北海道札幌市で活躍しているフリーライターで香りの文化史・文化誌研究家、香りの通信舎を主宰している伊藤由起子先生に登場いただき、吟香に対する熱い思いを語っていただきました。伊藤先生は、以前、岸田吟香記念館や生誕地を訪れたことがあり今でも加原奎吾会長とは交流があります。

●会員募集中

引き続き会員を募集しています。共感できる方は是非応援してくださいませんか。会費年額　1,000円です。遠方の方には郵便定額小為替と言う送金方法もありますので、事務局へお問い合わせください。

会のQRコード☛

孤児救済施設 愛育堂史跡　視察

十月二十五日、私たち語り継ぐ会のメンバーは、明治初期、吟香が孤児救済に関わったとされる兵庫県丹波市を尋ねた。

岡山県では、孤児救済は石井十次が有名だが、十次より八年も早く棄児や孤児の救済に私財を投げうち立ち上がった大野唯四郎、その生涯を調査するため行ったもので、現地では唯四郎研究の第一人者、青木正文氏に案内をしていただいた。

青木氏から日記を見せられる会員

市島町竹田コミュニティセンターで唯四郎の日記を拝見後、京都府との県境に接した場所にある愛育堂史跡を尋ねた。その後、唯四郎墓所に行き「愛育院慈善徳・・」と記された戒名を拝見、その功績に思いを馳せた。

現在、丹波市は、吟香が名付けた愛育堂の「愛育」をとり福祉のまち「愛育の里」として活性化に取り組んでいるが、車で移動するたび街のあちこちで「愛育」「愛育」の名称入りの看板が目についた。

播磨町との約束「ジョセフ・ヒコと吟香の関係を継続しよう！」

11月18日、兵庫県立考古博物館で行われた播磨町町制施行60周年記念「新聞資料研究会第30回播磨大会」に招待された語り継ぐ会は、翌日の「新聞の父・ジョセフ・ヒコ講演会」には参加できなかったもののヒコらと日本で初めて邦字新聞を創刊した本間と吟香。交流会で、同研究会（東京）羽島知之会長は、吟香がいなければヒコの新聞はなかったと強調された。またジョセフ彦記念会（埼玉県）堀千枝子会長からは、ヒコと吟香のような関係を今後も継続しましょうと提案があり、私たちは約束を誓い播磨を後にした。

書籍「岸田吟香傳」 発刊！

11月30日、日本文教出版㈱から標記書籍が発刊された。著者は埼玉県在住の山本巖氏。誰もが読みやすく編集された紙面づくりは研究密度が高い。手に取りたい一冊である。

編集後記

新年を迎えても衰えることを知らない新型コロナウイルス。早く終息して貰いたいです。会報第五号をお届けします。ご覧ください。山本